

第 1 回蒲生地区まちづくり会議の記録

会議名	第 1 回蒲生地区まちづくり会議
開催日時	令和元年 7 月 22 日 (月) 19 時～20 時 30 分
参加者数	17 人
事務局	都市整備部：井出部長 政策課：山元副部長(兼)課長、木村調整幹、長瀬主査、平井技師 都市計画課：田中副参事(兼)課長、北村副課長、麻喜主事 市民活動支援課：大塚副課長 蒲生地区センター・公民館：長野所長 ランドブレイン：稲葉氏、大屋氏
議事	1 開会 2 あいさつ 3 自己紹介 4 議題 (1) 越谷市総合振興計画・越谷市都市計画マスタープランについて (2) 地区まちづくり会議について (3) 会長・副会長の選出について (4) 第 4 次越谷市総合振興計画の進捗状況について (5) 越谷市都市計画マスタープランの進捗状況について (6) 地区まちづくり会議提言書の進捗状況について (7) 越谷市及び地区の現状（人口・土地利用）について (8) 今後の進め方について 5 閉会
質疑応答	(1) 越谷市総合振興計画・越谷市都市計画マスタープランについて 質疑無し。 (2) 地区まちづくり会議について 質疑無し。 (3) 会長・副会長の選出について 事務局一任により、選出。 (4) 第 4 次越谷市総合振興計画の進捗状況について 質疑無し。 (5) 越谷市都市計画マスタープランの進捗状況について 委員：施策 1 の都市計画道路越谷吉川線は継続中とのことだが、今後どこまで伸ばす予定か。暫定的につなぐのか、バイパスまで行くのか。 事務局：計画としては国道 4 号に接続する。現在は、東武スカイツリーラインまでの延伸を目指している。 委員：いつまでに整備する予定か。 事務局：鋭意、取り組むということで理解いただきたい。

会長：事務局説明に補足するが、施策4の南浦和越谷線と施策5の蒲生柿木川戸線は歩行者の安全性確保の観点から県へ要望を出し続けているが進まない。本来なら南浦和越谷線は22m幅の道路となるが予算の関係もあり用地買収が進まないというのが現状である。中央分離帯を作らざるを得ないなどの諸問題も抱えている。事業が進み、幅員が広がれば、危険も減り、また、レイクタウンにスムーズに行けるようになれば、観光客も増えると思われる。土地買収など調査検討は進んでいる。そのあたりも踏まえて次回の検討で話していきたい。

委員：施策6の鳩ヶ谷別府線の先の登戸橋の開通の影響なのか、最近登戸の住宅地に大型のトラックが進入するようになり住民から危険だという声があがっている。

会長：そのような地域の声、課題をこれから検討する提言書に掲げていきたい。なお、現状の危険に対する対策については関係課に対応を願いたい。すぐできる標識などについては都市計画課が進めてほしい。

(6) 地区まちづくり会議提言書の進捗状況について

委員：目標③の地域で支え合う防犯・防災の環境づくりに関して、街灯については設置が進んでいるが防犯カメラの設置状況はどうか。子どもたちの通学路など地域から設置場所の要望は出せるのか。

事務局：個人的に把握している限りだが、現在通学路など道路への設置はなく、人が集まる施設や建物など公共の施設には設置されている状況である。南越谷駅のロータリーに試験的に設置している。検討段階だが通学路の要所要所に設置する検討をしている。

委員：自治会では、犯罪が起こった際に防犯カメラが犯人逮捕につながるニュースなどが話題になり関心が高い。総会でも意見があったため質問した。

委員：以前は蒲生東小、現在は明正小に通う地区だがPTAや学校側からも通学路への防犯カメラ設置を要望している。予算の関係などもあるだろうが、子どもたちの安全という面からぜひ進めてほしい。子どもたちの事なので早急をお願いしたい。

会長：防犯カメラは犯罪の抑止や犯罪検挙率の向上にもつながる。LED街灯はほぼ設置されたので、次は防犯カメラを要望していきたい。

委員：目標②の公園に関して、これまで遊べていた公園が、地主が亡くなり使えなくなるケースもある。空き家対策とともに何らかの対策が必要。

会長：目標④の蒲生駅東口を經由するバス路線について要望を出しているが、バス事業者（朝日バス）から利用者が少なく採算性が低く困難といわれている。

委員：南越谷駅から南体育館へ向かうバスも、当初は蒲生駅東口発で開通されたが、利用者が少ないということで南越谷駅発となった。蒲生駅の東口からの乗車が少なく廃止される。南越谷駅からの利用者は多い。

会長：バス会社は採算性という観点から難しいかもしれないが、コミュニティバスなどもあり、引き続き要望は出していきたい。

	<p>委員：提言書の細かい提言を配ってほしい。</p> <p>委員：110 項目中 80 実施で実施率 73%と高水準に見えるが、自分たちの実感とちがう。目標①で蒲生東小学校から光陽中へ通えるよう学区を変更したとあるがそもそも蒲生地区内に中学校がないなど認識に差があると思われる。どこまでやっているから実施済み、実施中としたかなどを整理してもらえないのではないか。</p> <p>事務局：次回の会議等で提示する。110 項目は委員からの要望を列挙したものであり重複する内容もある。また実施率には何らかの取り組みを始めているものは実施中として加算している。実施率は、実施済みと実施中を合わせていることをご了解いただきたい。</p> <p>会長：実施率というより達成度という見方も必要。</p> <p>事務局：項目ごとに実施済かどうかなどを示した一覧を準備する。</p> <p>(7) 越谷市及び地区の現状（人口・土地利用）について</p> <p>会長：蒲生地区は武蔵野線の南側と北側にわかれているが、その間には南越谷地区と大相模地区があり、地区が分断されている状況である。</p> <p>(8) 今後の進め方について</p> <p>質疑無し。</p>
意見交換	特になし。

第2回蒲生地区まちづくり会議の記録

会議名	第2回蒲生地区まちづくり会議の記録
開催日時	令和元年8月7日(水) 19時~21時
参加者数	17人
事務局	政策課：山元副部長(兼)課長、木村調整幹、長瀬主査、平井技師 都市計画課：田中副参事(兼)課長、北村副課長、麻喜主事 市民活動支援課：大塚副課長 蒲生地区センター・公民館：長野所長 ランドブレイン：稲葉氏、大屋氏
議事	1 開会 2 あいさつ 3 グループワーク (1) グループワークの概要について (事務局より説明) (2) グループワーク「地区の現状と将来のまちづくり」(ランドブレインより進行) ① 地区の強みと弱みについて ② 将来のまちづくりの目標について 4 その他 5 閉会
質疑応答	特になし

■ワークショップ「地区の現状と将来のまちづくりについて」

＜Aグループの意見＞

地区の強みと弱みについて

キーワード	問題点（弱み）	良いところ（強み）
<p>交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災 ・ 防犯 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南浦和越谷線の整備が遅れている。 ・ 柿木県道の整備がなかなか進まず渋滞がひどい。 ・ 柿木県道の歩道が途中まで途切れており、通行が危険な箇所がある。 ・ 交通量の多くなった道路で事故が多発。（死亡事故も起きている） ・ 登戸宮前通りの途中で歩道がなくなり、人の行き来も危ないところがある。 ・ 登戸橋の新橋が開通し、大型車両等の通行量が増え、車道が狭く、歩道もないため危険である。（セブンイレブン前付近）。 ・ 蒲生駅からのバス路線が少ない。新田駅行きはあるが、南越谷駅行きはない。 ・ 道路（歩道）が暗い箇所がある。 ・ 地区が分断されているため、災害時の活動や情報の共有が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通の便がよい。 ・ 西方の産業道路が開通し使いやすい。 ・ （竜巻や水害などの）大きな災害が少ない。 ・ 登戸橋の新橋が開通し、レイクタウンへ向かう交通の便が良くなった。
<p>コミュニティづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規住民のコミュニティへの参加が難しい。 ・ 大規模マンションは単独で自治会を立ち上げなければならず、既存の組織に入りづらい。 ・ 新しい住民の自治会加入率が悪い。 ・ 地域活動組織の高齢化が進んでいる。 ・ 若い人の地域参加が少ない。 ・ 高度成長期のマンション居住者の高齢化が進んでいる。 ・ （中学校が地区内にないため）学校のつながりは小学校までで途切れる。 ・ 新規住民の要介護者や支援が必要な人がどこにいるかがわからない。（災害や犯罪の危険） ・ 地区が分断されているため、瓦曽根に住んでいる人たちの蒲生地区である認識が薄れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区人口が一番多い。 ・ お年寄りが多い。 ・ 地域活動に参加する人の年齢層は高いがそのために参加人数が読める。 ・ 学校などでの親同士、子ども同士のつながりがある。 ・ 学校のイベントや祭りなどで地域住民とのつながりがある。

キーワード	問題点（弱み）	良いところ（強み）
生活施設 ・公園	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな公園がない。 ・ボール遊びできる場所がない。 ・埼玉県一長い商店街だったが高齢化などで商店街が衰退している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・（小さいが）公園が多い。 ・スーパーやお店が多く、夜間でも比較的明るく賑やかな通りがある。 ・病院や施設が多い。
学校区 ・コミュニティ区	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は多いが偏って立地している。 ・小学校だけで6校に分かれるため情報も分散しがち。 ・地区内に中学校がない。 ・中学校までが遠い。 ・地区が南北に長く行事に集まりにくい。 ・地区が分断されている（瓦曽根） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内に小学校が多い。 ・小学校が近く、子どもたちの見守りができる。
景観 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の住宅地は暗く歩きづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元荒川沿いの景色がよい。 ・高い建物が少なく空がよく見える。

将来のまちづくりについて（キーワード）

- 世代間の交流 … 子どもの育てやすいまち／地域で見守りあえるまち
- 地区の分断 … 祭りで人を寄せるまち／一体感のあるまち
- 災害・安全 … 人が歩きやすいまち／地域で見守りあえるまち

《Bグループの意見》

地区の強みと弱みについて

キーワード	問題点（弱み）	良いところ（強み）
コミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・新旧世代交代がうまく進まない。 ・既存組織の活動が停滞してきており、継続が困難になっている所もある。 ・地区活動が一部役員にお任せになっている。 ・コミュニティ組織がリーダーの個人的資質に依存してしまう場合がある。 ・一般住民がもっと活動してほしい。 ・昔と違い近所の人とのつながりがなくなってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動が盛ん。 ・地区の役員が積極的に活動している。
交流	<ul style="list-style-type: none"> ・新旧住民の交流が乏しい。 ・近隣の人とのあいさつすらあまりない。 ・一人暮らし高齢者が気軽に集まれる場所がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい住民も地域に混在している。 ・新旧住民が仲良く活動している。 ・夏祭りが盛んに行われている。
人口	<ul style="list-style-type: none"> ・独居や老人のみ世帯が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が多い。 ・人口が増えている。

キーワード	問題点（弱み）	良いところ（強み）
商店街 ・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の落ち込み（まとまりがない） ・商店が近くにない。 ・公園が少ない。 ・子どもがボールを使って遊べるところが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や買い物の場所に不便がなく、生活しやすい。 ・行政や生活するための施設などがあり便利。 ・南町には公園がいくつもあり、常に子どもたちが元気に遊んでいる。
交通・道路	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生駅東口のバス路線を充実してほしい。 ・通学路が狭くて危険。 ・道路の標示などが薄くなっている。 ・区画整理されておらず道幅が狭い。 ・夜間もっと明るくしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道（JRと私鉄）が通っており便利。 ・住宅地として環境がよい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・瓦曽根地区が飛び地になっている。 ・飛び地を含めて地域が混在している（住所が南越谷でも、コミュニティ区では蒲生地区と南越谷地区の両方があるなど）。 ・蒲生地区なのに中学校は川柳地区に通っている。 ・公民館長への手紙 ・子どもの意見（過去に子どもの意見があれば知りたい） 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が少ない。

将来のまちづくりについて（キーワード）

- 世代間交流のさかんなまち
- 定着のまち
- 子どもにやさしい蒲生

第3回蒲生地区まちづくり会議の記録

会議名	第3回蒲生地区まちづくり会議の記録
開催日時	令和元年8月29日(木) 19時~21時
参加者数	16人
事務局	政策課：木村調整幹、長瀬主査、平井技師 都市計画課：北村副課長、麻喜主事 市民活動支援課：大塚副課長 蒲生地区センター・公民館：長野所長 ランドブレイン：稲葉氏、大屋氏
議事	1 開会 2 あいさつ 3 グループワーク グループワーク「テーマごとの取組と将来のまちづくり」 4 その他 5 閉会
質疑応答	特になし

<第3回蒲生地区まちづくり会議グループワークの結果>

目指したいまち：(仮) **あらゆる世代が交流する全員参加のまちづくり (コミュニティ)**

≪Aグループの意見≫

	短期 (1～5年)・すぐにできること	中長期 (5年以上)・時間がかかること
自分たちでできる取組	<p>【ご近所から広げる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動 ・顔見知りになる、つながりをつくる <p>【蒲生フェスで一体化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋のコミュニティイベントで参加者を増やす <p>【若者を呼び込む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代同士の交流、連携 ・親・子・孫など三世代のイベント ・青少年 (中高生、大学生)、シニアリーダーの参加 ・定期的に若い人達と今後の事について意見を出し合う ・子どもと大人の会議を開く ・自治会で子どもと一緒にできるイベントを考える ・世代交流の場があるとよい <p>【自治会改革、役員の意識改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他地区 (自治会) と住民同士の話し合いをする ・各自治会同士の交流を活発にする 	
支援してほしいこと	<p>【学校との協力】 ⇒学校も地域に呼び込む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校のバザーに地域住民も参加できるようにする (学校から参加依頼をする) ・小学校の行事・催しに地域住民が参加し顔を覚えてもらう <p>【災害時などいざという時のために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会と民生委員が協力して要支援者を把握して今後役に立てる ・要支援者の情報を年齢別色分けなどで地図に落とし災害に備える 	<ul style="list-style-type: none"> ・瓦曽根地区経由のバス運行 ・分断された地域について行政を巻き込んで行動する

目指したいまち：(仮) **あらゆる世代が交流する全員参加のまちづくり (コミュニティ)**

≪Bグループの意見≫

	短期 (1～5年)・すぐに行えること	中長期 (5年以上)・時間がかかること
自分たちでできる取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供会、育成会の組織化 ・ 若い人たちの自治会参加 ・ 自治会のイベントの場を使って住民の交流を図る ・ 情報の共有化 (活動等) ・ “自治会”というものの役割、組織を子どもたち (若い世代) に説明 (例えば、子ども目線の自治会報。一緒に親世代も勉強できる。) ・ 地域活動を点数制にする ・ 世代間の交流、多くの人を楽しむことができる行事の企画 (自治会+子供会+運動部等で話し合い) ・ 地区分断について住民の意見を聞く ・ 意見を集約して地区間で調整する ・ 行政と連携し新しい組織の在り方を検討 【課題の追加】 ・ 子供会、婦人会がなくなっている ・ 若い人の参加が少ない ・ 世代間のつながりが少なくなっている ・ 若い世代を巻き込むこと 	
支援してほしいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ活動の拠点づくり ・ 蒲生全員が集まれる運動場の確保 ・ 中学校区でのコミュニティ形成 ・ 現状と未来予測に応じたコミュニティ区、学区再編 ・ 蒲生地区に中学校を作る ・ 地域活動に応じたインセンティブを導入する 	

目指したいまち：(仮) **事故や犯罪、災害のない安全・安心なまちづくり** (安全・安心)

≪Aグループの意見≫

	短期（1～5年）・すぐにあること	中長期（5年以上）・時間がかかること
自分たちでできる取組	<p>【防犯、見守り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自治会の見守り隊員を増やす ・犬の散歩をするときには見守り用ベストを着用する ・自宅の門灯をつけて通りを明るくする <p>【交通安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人が自転車の交通ルールを守る ・狭い道に入ってくる車にスピードを落とすよう立て看板をつくる 	
支援してほしいこと	<p>【防犯、見守り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街などからの防犯カメラの申請が煩雑なので簡単にしてほしい ・裏通りの街灯を増やしてほしい <p>【交通安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道に広がって歩く小中学生に学校から注意を促してほしい ・学校沿いの道路の30キロ制限（ゾーン30）を厳守してほしい ・学校や公園の近くに信号つき横断歩道を設置してほしい 	

目指したいまち：(仮) **事故や犯罪、災害のない安全・安心なまちづくり** (安全・安心)

＜Bグループの意見＞

	短期（1～5年）・すぐに行えること	中長期（5年以上）・時間がかかること
自分たちでできる取組	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯パトロールを増やす ・通学路のパトロールを実施する ・クリーンアップ（清掃活動）を行い、地域の人々の目を行き届かせ防犯効果を高める ・出張講座での勉強 ・安心して歩けるよう、蒲生商店街を活性化させる。 ・きめ細かな防災計画の作成、周知（災害直後は身近な住民同士や自治会での対応しかできないため、情報共有などの体制・つながり作りが必要） 	
支援してほしいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・街路灯を増やす（行政による） ・通学路に防犯カメラ ・県道足立越谷線（旧4号）と県道越谷八潮線（産業道路）の自転車専用レーンの整備 ・災害時の車道、歩道が狭いので広くしてほしい ・信号機のない交差点で一旦停止表示が分かりづらく事故が多いところがある ・交流館へのエレベーターの設置 ・公共施設に防災用品の充実を ・ブロック塀の高さ制限 ・古いブロック塀に地震時の危険を知らせるステッカーを付ける ・犯罪等の多発地帯をマップにのせて啓発活動をする ・きめ細かな防災計画の作成、周知 	

目指したいまち：(仮) **地域一体となって子どもの笑顔とまちのにぎわいを育む
まちづくり（子育て・活性化）**

《Aグループの意見》

	短期（1～5年）・すぐにできること	中長期（5年以上）・時間がかかること
自分たちでできる取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で自由に参加できる子どもの活動を増やす ・自治会レベルで放課後活動を支援する ・子どもたちの見守りを親だけでなく地域の大人も支えるようにする ・放課後支援などに地域の人材を活用する ・自治会内の組織を見直す 	
支援してほしいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性のある放課後支援員を養成する ・放課後支援などにおける地域の人材活用を支援する 	

目指したいまち：(仮) **地域一体となって子どもの笑顔とまちのにぎわいを育む
まちづくり (子育て・活性化)**

⇒東京の下町のようなおせっかいな人が多くいるまち (案)

≪Bグループの意見≫

	短期 (1～5年)・すぐにできること	中長期 (5年以上)・時間がかかること
自分たちでできる取組	<ul style="list-style-type: none"> ・蒲生フェスティバルと商店街の同時イベント ・商店街からの購入 (イベント備品など) ・次回のまちづくり会議には20代の参加 ・成人式の実行委員を呼ぶ ・大学生との連携 ・中高生との連携 ・蒲生地区へ来た人に親切に 	
支援してほしいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・保育施設の充実 ・小学校での放課後の学校開放 ・学校を総合拠点として活用 ・働く場所を市内に 	

第4回蒲生地区まちづくり会議の記録

会議名	第4回蒲生地区まちづくり会議の記録
開催日時	令和元年10月22日(火) 19時~21時
参加者数	16人
事務局	都市整備部：井手部長 政策課：木村調整幹、長瀬主査、平井技師 都市計画課：田中副参事(兼)課長、北村副課長、麻喜主事 市民活動支援課：大塚副課長 蒲生地区センター・公民館：長野所長 ランドブレイン：稲葉氏、大屋氏
議事	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 提言書(案)について (2) 地区別将来像について 4 その他 5 閉会
質疑応答	3 議題 (1) 提言書(案)について 委員：提言書に「蒲生地区内に中学校を設置する」ということを加えたい。サンシティの再整備の話があり、蒲生地区としても触れるべき。元々市民ホールと商業施設の複合施設であり、今後も複合施設となる見込から、「学び」の観点から中学校を組み入れてはどうか。学区再編の提言とも関係する。瓦曾根地区も含めた地区の一体性の面からも、地区の核となる施設となる。 会長：サンシティとなるとグラウンドの確保が問題となる。サンシティにこだわらず、例えば蒲生小と蒲生第二小辺りの再整備によって南中を呼び戻すという方法もあるのか。 委員：地区内にあるほうが中学生に対して目が届くとは感じる。しかし中学校ではグラウンドの十分な広さが必要。蒲生地区内に中学校が戻ることは大事だが、現在の小学校の敷地でも十分な広さは確保できないと感じる。 委員：具体的な場所は決められないが、提言としては入れるべき。 委員：提言は必要。将来的に少子化が進み学校の再編は確実にある。その際に、広さの問題は置いておいても提言として出しておくべき。 委員：質問だが、JRの貨物駅の所は再開発の可能性はあるのか。もし計画があれば人口増加により学校も必要になるのではないか。 事務局：JRの貨物駅は都市計画施設の「流通業務団地」として、流通業務に関連する土地利用を図るものと位置付けている。この都市計画については今のところ見直しの予定はない。

委員：レイクタウン地区の整備が川柳地区からこちらのほうへ伸びてくる予定はないか。

事務局：住宅開発を目的とする区画整理については西大袋地区が最後で、現時点ではそのほかに予定はない。

委員：川柳小はかなり飽和状態と聞いている。新設の計画はないのか。

事務局：川柳小は増築を行っている。学童クラブなどで施設が手狭になっていることは承知しているが、ゆくゆくは人口減少局面となることから、学校新設の見込はない。

委員：中学校の件は「市への期待」に掲載すべき。「将来を見据えたコミュニティ区、学区の再編検討」に「中学校設置の検討」を加えてはどうか。

委員：施設、ハコ物というだけの問題ではなく、学校は地域の活動の「核」となる場所。そのような場所となる中学校を蒲生地区に再び取り戻したい。

委員：「学校との連携」の具体的な内容の「小学校の行事への協力体制づくり」にも「小・中学校の～」を加えた方がよい。

会長：では、提言書の4 p 目標1の1-1「③学校との連携」の2つめの●を「小・中学校の行事への協力体制づくり」に、8 p 1-1「③学校との連携」の具体的な内容を「小・中学校と地域住民の連携支援」に、1-2「②地区の再編検討」の「将来を見据えたコミュニティ区、学区の再編検討」に「(中学校の地区内設置等)」を追加する、ということではいかがか。

委員：異議なし

(2) 地区別将来像について

修正意見無し

※その他、提言書の体裁等の修正については会長・副会長一任で了承。

4 その他

総合振興計画の策定および実施に関して、必要な調査・研究および審議を行う「越谷市総合振興計画審議会」の委員に、市内各地区まちづくり会議からの代表者の枠につき、協議した。

以上